

ひまわり通信

№2 平成20年5月27日
新潟市立東青山小学校
校長 斎川 英子
児童数 620人(5/27現在)
(231)9611 Fax(231)9623



<http://www.niigata-inet.or.jp/higashi/>
<http://www.niigata-inet.or.jp/higashi/i/> (携帯用)
E-mail h-aoyama@niigata-inet.or.jp

「が」と「が」がいっぱいの運動会

5月24日、大勢の保護者や地域の方々の声援の中、恒例の大運動会が行われました。

運動会に向けて一生懸命に取り組んでいた子どもたちや教職員のことを思うと、何としても晴れてほしいと願わずにはいられません。その思いは天に通じ、絶好の運動会日和となりました。

開会式では、子どもたちに、二つの「が」を大事にする運動会にしようと話しました。それは、がんばるの「が」と、がまんの「が」です。

子どもたちの真剣なまなざし、教わったとおりの走り方、ゴール直前の猛ダッシュ、声を張り上げての応援など、がんばる姿は数えきれないほどたくさんありました。これには、見ている子どもも心を打たれるものです。がんばる仲間への声援が一段と大きくなります。

勝負の世界ですから、悔しい思いも生まれます。がまんすることもあります。

たった一日で、このようにたくさんの体験を与えてくれる運動会には恐れ入ります。

運動会後の子どもたちは、きっと一回りも二回りも大きく成長していることでしょう。

運動会においでくださった地域の方々は、次のような感想をお話してくださいました。

「子どものがんばる姿は見る者に元気を与えてくれる。」「子どもたちの一生懸命さは欲がなくていいんだね。大人も見習わなくっちゃ。」

そのお話を聞いた後、私は、子どもたちの最後の応援合戦を、胸が熱くなる思いで見ました。



教頭 伊丹和哉 撮影

子どもの心に寄り添うには

子どもが安心して何でも話してくれるような関係でいたいと思うのは親も教師も変わらない。では、子どもが心を開いていると感じるのはどんなときだろう。

教育相談「ひまわりタイム」を終えた6年生担任の佐藤文雄先生は次のように記している。

「私は、まず、自分を語ることにしています。できれば、おもしろおかしく…。そのうちに、ふんわりとなごんだ空気が漂い始めます。やがて、子どもがふわっと口を開きます。そうすると、私は聞き役になります。その時、私はしばしその子の心の部屋にいるような気がします。」(学級通信より一部抜粋)

最近もう一つ、子どもの心が開かれる光景に出会った。先日行われた読み聞かせボランティアによる「お話し会」でのこと。絵本「とんことり」は、転入してきた主人公の心と、まだ会ったこともない友達が主人公を思う心が描かれている。絵本の子どもの、自分を重ねながら聞き入る子どもたちの表情があった。そして、どの子も、何とも言えない、いい顔をして会場を後にした。

読み聞かせ
ボランティアの方々
・市来真由美さん
・折口美智子さん
・木戸 弘子さん
・小林美代子さん
・佐山 靖子さん
・松井 貴子さん